

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	犬塚 真由子 【ライフサイエンス専攻 平成25年度生】	<p>本学位論文では、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の乳癌患者は、対側乳癌の発症リスクが一般よりも高いと考えられ、対側リスク低減乳房切除術（CRRM）を受けることにより乳癌リスクの低減、生存率の向上が期待される。CRRM には医学的なメリットがあるが、心理社会的影響も生じる可能性があり、受けない場合においても適切な医学介入の提案もできる。したがって、CRRM を行うかの意思決定については明らかにする必要がありと考えられた。そこで本研究では、本邦の HBOC 患者における CRRM への意向および CRRM の意思決定に関わる要因について調査を行い、意思決定支援の方策について検討した。その結果、CRRM を受ける患者の意向が明らかになり、さらに有効性が期待できる意思決定支援ツールを作成する事ができた。</p> <p>本研究の第1部および第2部の内容は、筆頭著者としてそれぞれ独立した原著論文として、査読付きの英文誌誌（The Showa University Journal of Medical Sciences）および査読付き和文誌である昭和学士会雑誌に発表されている。</p> <p>学位論文の審査にあたって、分子生物学、臨床心理学、生命情報学、臨床遺伝学、遺伝カウンセリング学に精通した審査委員により構成される審査委員会を設置した。第1回審査委員会（平成30年12月21日）において論文内容は十分であるとされたが、論文構成や書式の一部に対して修正意見が出され、第2回審査委員会（平成31年1月8日）において適切な修正がなされていることを確認された。平成31年1月30日に開催された公開発表会では、全ての質問に対して的確な回答がなされた。</p> <p>審査委員会は、本論文は、現時点での HBOC 診療における実情を明らかにし、患者の意思決定支援に対する改善案としての意味を持つことに加え、今後の遺伝医療・ゲノム医療において、遺伝情報が医学的介入の判断になることへの対応策の先駆けとなり得るため、遺伝医療の実践のみならず社会体制の構築においても重要な研究と考え、かつ学術的にも高いレベルにあることが認められた。</p> <p>上記の理由より、本論文が博士論文として十分な内容であると評価した。</p> <p>以上より、本審査委員会は、本論文をお茶の水女子大学人間文化創成科学研究科の博士（学術）、Ph. D. in Genetic Counseling の学位授与に相応しいと判断した。</p>
論文題目	本邦の遺伝性乳癌卵巣癌症候群女性に対する対側リスク低減乳房切除術の意思決定支援に関する検討	
審査委員	(主査) 教授 三宅 秀彦	
	教授 菅原 ますみ	
	教授 由良 敬	
	助教 佐々木 元子	
	准教授 沼部 博直（東京医科大学小児科）	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">Ⓔ. 学術ジャーナルへ掲載されている、 もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	